

○事業所名	ばるぶる一む		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 10日		～ 令和8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 10日		～ 令和8年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の様子をよく観察し、個々において必要に応じた支援を心がけている。その事について利用児童保護者との共有がはかれており、個別支援計画や日頃の支援内容などに反映している。	支援前の打ち合わせの時間を大切にしており、実際の支援に活かすようにしている。また、あった事を保護者に伝えるという高い意識を持つ事業所風土づくりへの意識が継続出来ている。日頃から児童の様子の共有やモニタリング等、保護者との時間を大切にしている。	連絡帳の電子化を検討している。現在も当日実施したプログラムや児童の取り組んだ様子、心の状態など記載しているが、電子化に伴う効率化から更に明確に伝えられるようにしたい。その他、保護者との直接的なやり取りも更に増やして行く。
2	ほとんどの利用児童が通所を楽しみにしてくれており、過ごしやすい居場所となっている。	利用児童が「行きたい」と思ってくれることが基本となる。その考えのもとで全職員が利用児童の状態や気持ちなど、見た事、感じた事を話として出しやすい環境づくりに注力しており、毎日の支援前の打ち合わせにて活かすことが出来ている。	用意したプログラムや支援内容など更に意欲を持って取り組めるような環境づくりを更に作り上げて行く。また利用児童自身にアンケートや聞き取りを実施している。うまく伝える事が出来ない児童については想定する形を取っているが、そのニーズを更に活かして行く。
3	作業療法士による専門的プログラムを導入している。	作業療法士を配置しており、日々のグループ別学習等で作業療法を取り入れており、専門的支援実施計画に基づいたプログラム内容を展開している。また将来、作業療法士を目指す学生の実習もお受けしている。	作業療法士にはモニタリングに同席した上で立案した専門的支援実施計画書を説明している。計画書は個別支援計画とリンクする内容としている。更に充実化させて、利用児童の成長を促すという結果を残せるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会及び明確なペアレントトレーニングの機会を作る事が出来ない。	以前からの課題ではあるが、実際にペアレントトレーニングについては実施できる実力があるのかという点で踏み込む事が出来ない状態にある。保護者会について令和8年度中に実施したい。	保護者アンケートにて「保護者会等は必要ない」という声も出ている。親子参加型など実施する内容を入念に考えつつも、まずは実施したい。ペアレントトレーニングは講師を呼んでの実施など、検討して行きたい。
2	地域の他の児童との交流する明確な機会を作る事が出来ない。	ここも以前からの課題であり改善出来ないのが現状である。地域で開催されている子ども食堂へは地域交流として2・3カ月に一度、利用児童をお連れしボランティアの方などとの交流をはかっているが、学童など定型発達児童との交流は様々な観点から躊躇している面がある。	他の事業所、学童との交流について保護者の方から今回のアンケート並びに日頃の話からも賛否両論という実情がある。よく検討しながら、まずは実施してみるといった方向で動いて行きたい。
3	事業所としての全体的な取り組み、マニュアルや安全管理体制についての開示など保護者に伝わっていない面が伺える。	ここは、すぐに改善できる点である。プログや作業療法士監修のたよりは定期的に発行しているが、明確に伝えるという事が出来ない。	公式LINEアカウントや電子化を進めている連絡帳など、SNSをフルに活用する形で発信して行きたい。